

【vol.53】マイナーキー実践編 ～その2～ ハーモニックマイナーについて

こんにちは、大沼です。

引き続き、「マイナーキー実践編」として、
マイナーのツーファイブについて学んでいきましょう。

前は、

『マイナーキーの楽曲の場合、本来、ナチュラルマイナースケールから成り立つ
ダイアトニックコードでコード進行が成り立っているはずが、「V m7」が「V 7」に変わっていて、
ハーモニックマイナー的な音使いが出てきた』

と言う話でしたね。

そしてその理由として、トータル・センター(キー・センター)の半音下に位置する、
「導音(リーディング・トーン)」の存在が挙げられました。

これは、ナチュラルマイナースケールの m7th の音を半音上げて M7th にし、
コード進行(やメロディー)としての解決感を強めるのが目的です。

今回は、その辺りの理屈がどうなっているのか？
もう少し詳しくやっていきましょう。

キーワードは、

『ハーモニックマイナースケールのダイアトニックコード』

これです。

では、始めていきましょうか。

題材は引き続き key=Am の II - V - I である、

Bm7($\flat 5$) \Rightarrow E7 \Rightarrow Am7

の進行です。

前回の話を踏まえると、key=Am 時の V 7 である E7 の部分は、
A ナチュラルマイナーではなく、A ハーモニックマイナーから来るコードである、
と言う事でしたね。

これは、もう少し突っ込んだ話をすると、

ナチュラルマイナースケールで構成されるダイアトニックコードがあるように、
ハーモニックマイナースケールで構成されるダイアトニックコードもある、
で、そこから V 7 のコードを持ってきている

と、こういう事です。

そして、メジャー、マイナーの時に、アイオニアン～などのモードがあった様に、
ハーモニックマイナーにも 7 つのモードがあります。

こんな話をすると、「うわー、またコードとかスケールを覚なきやならないのかよ。」
と、思うかも知れませんが笑、別に覚えなくても良いです。
(※普通はそんなに使わないので)

それらの中にちゃんと V 7 がある事と、一部のコードだけ確認しておいてください。
(※ですが、ジャズ等をやりたい人は、出来るだけ覚えておくと良いことがあるかもしれません)

と、言うことで、ハーモニックマイナーのダイアトニックコードとモードスケールはこちら。

※ハーモニックマイナースケールのダイアトニックコードとモードスケール

I mM7	ハーモニックマイナー
II m7(♭5)	ロクリアン 13th (or ロクリアン#6th)
♭III augM7	アイオニアン#5 (←『♭III M7(#5)』のコード表記の方が多いかもかもしれません)
IV m7	ドリアン#4
V 7(♭9)	ハーモニックマイナー P5th ビロウ (or フリジアン・ドミナント or フリジアン#3)
♭VI M7	リディアン#9
VII dim7	オルタード ♭♭7 (or スーパー・ロクリアン・♭♭7)

いやあ、いきなりこんなものを出されても、とんでもない謎言語っぷりだと思いますが、
実は、今まで学んできた事を使えば、大体のものは普通に解明できたりします。
(※でも無理に覚えなくても良いです)

カッコでの注釈が多いのは、構造的に色々な呼び方が出来たり、されていたりするから、ですね。

興味のある方は、ハーモニックマイナースケールをじっくり見ながら、以前学んだ「コードの成り立ちの法則」と、「インターバル的な音名の呼び方」のそれぞれの知識を駆使すれば、音構成が名前の通りになっていることがわかるでしょう。

ですが、とりあえず今回重要なのはここです。

I mM7	ハーモニックマイナー
II m7(♭5)	ロクリアン 13th (or ロクリアン [♯] 6th)
♭III augM7	アイオニアン♯5 (←『♭III M7(♯5)』のコード表記の方が多いかもかもしれません)
IV m7	ドリアン♯4
V 7(♭9)	ハーモニックマイナー P5th ビロウ (or フリジアン・ドミナント or フリジアン♯3)
♭VI M7	リディアン♯9
VII dim7	オルタード ♭♭7 (or スーパー・ロクリアン・♭♭7)

赤字にしたのは、今、問題になっている『V 7』ですね。(※「♭9」の事は今は忘れてください)

後はハーモニックマイナーのトニックコードである「I mM7」と、たまに使う事になる「VII dim7」の、2つのコードとモードスケールの名前を、何となーくで良いので、頭の片隅に入れておきましょう。

普通の曲を弾くならば、大方、その3つくらいで十分ですので。

さて、マイナーキーのツーファイブでは、多くの場合、V m7ではなくてV 7を使う、と言う話でしたが、そのV 7のコードがこちらにはしっかりありますよね。

要するに、ナチュラルマイナーのダイアトニックコードには存在しない「V 7」と言うコードは、この、ハーモニックマイナーのダイアトニックコードから持ってきているわけです。(※音楽の歴史的には、コードとスケールのどちらから持ってきたのかは僕はわかりませんが)

なので、前回確認したとおり、V 7の部分では、音構成もハーモニックマイナーに変わっていますよね？(※ナチュラルマイナーのG音がG♯音に変わっている)

と、この様な理屈で、マイナーキーのII - V - Iには、V 7が出てくるのです。

さて、基本的な理屈もわかったところで、次に、『じゃあ、実際のギタープレイでは何を弾くのか？』について考えていきましょう。

今、題材にしているコード進行は key=Am の II - V - I なので、進行は Bm7(b5)⇒E7⇒Am7 ですね。

Bm7(b5)と Am7 の2つのコードについては、普通に A ナチュラルマイナースケールを弾けば良いのですが、問題なのは E7 ですね。

とは言え、この講座をずっと受けているあなたなら、ここまでの解説で、「ハーモニックマイナー系(のもの)を弾くんでしょ」という予想が付いていることでしょう。

で、まったくその通りなんですけど、ここでもう一度、ナチュラルマイナーとハーモニックマイナーのダイアトニックコード表を見てみましょうか。

※ナチュラルマイナー

I m(I m7)	エオリアン
II m(b5)(II m7(b5))	ロクリアン
b III(b III M7)	アイオニアン
IV m(IV m7)	ドリアン
V m(V m7)	フリジアン ⇄
b VI(b VI M7)	リディアン
b VII(b VII 7)	ミクソリディアン

※ハーモニックマイナー

I mM7	ハーモニックマイナー
II m7 b5	ロクリアン 13th
b III augM7	アイオニアン # 5
IV m7	ドリアン # 4
V 7(b9)	ハーモニックマイナー P5th ピロウ
b VI M7	リディアン # 9
VII dim7	オルタード b b 7

それぞれを対比してみるとこの様になりますね。

通常、A マイナーキーの場合、A ナチュラルマイナー(A エオリアン)系のスケールを使う事になりますが、V 7 の部分は A ハーモニックマイナーから来ているコードなので、A ハーモニックマイナー系のスケールを使います。

で、上の表を見ての通り、V 7 である E7 上では、『E ハーモニックマイナー P5th ピロウ』というスケールが対応しているので、それを使ってメロディーやソロを弾く事になります。(※ハーモニックマイナー・パーフェクトフィフス・ピロウと呼びます)

このスケールの名前だけを聞くと「なんじゃそら」って感じですが、要するに、

『基準とするハーモニックマイナースケールのトニックから見て、
P5th にあたる音から弾き始めるスケールですよ』

と、そのまんまの名前だったりします。
(※『Below (ビロウ)』が『以下』とか『より下に』と言う意味ですね)

今回の key=Am の例で言えば、基準音が A 音なので、
「E ハーモニックマイナー P5th ビロウスケール」と言ったら、

『A ハーモニックマイナースケールの構成音の、トニックである A 音から見て、
P5th である E 音から順に弾いていくスケール』

と、こういう話です。

スケールの名前がやたら長いので、『Hmp5↓』と省略して書かれる事も多いです。
(※この講座でも、今後は『Hmp5↓』略称を使います。)

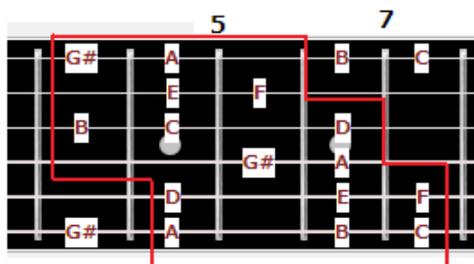
さてさて、長い解説もひと段落したところで、実際に使う、
スケールポジションを覚える作業に入っていきます。

まずは基本としての、「A ハーモニックマイナースケール」の重要ポジションを2つと、
V 7に対応する「EHmp5↓スケール」の重要ポジションを2つずつ覚えます。

とりあえず、この、合計4つのポジションを覚えているだけでも、
かなりリッツファイブに対する対応力が上がりますので。

それでは、A ハーモニックマイナーの重要ポジションから。

図、A ハーモニックマイナー重要ポジションその1



譜例

Musical score for 'A Harmonic Minor Important Position 2'. The score is in 4/4 time and features a melody in the treble clef and guitar tablature in the bass clef. The melody starts with a *mf* dynamic. The tablature shows fingerings: 5-7-8, 5-7-8, 6-7, 4-5-7, 5-6, 4-5. The lyrics are: 人薬小人薬小中薬 人中小中薬人中.

図、A ハーモニックマイナー重要ポジションその 2

Diagram of the A Harmonic Minor Important Position 2 on the guitar fretboard. The frets 5, 7, and 9 are marked. The notes are: 5th fret (G#, A, B, C, D, E, F), 7th fret (G#, A, B, C, D, E, F), and 9th fret (G#, A, B, C, D, E, F). A red box highlights the notes G#, A, B, C, D, E, F across the frets.

譜例

Musical score for 'Ehmp5 Down Scale Important Position 1'. The score is in 4/4 time and features a melody in the treble clef and guitar tablature in the bass clef. The melody starts with a *mf* dynamic. The tablature shows fingerings: 5-7-8, 5-7-8, 6-7, 9-10, 7-9, 10-9, 10. The lyrics are: 人薬小人薬小人人 薬小人薬小薬小.

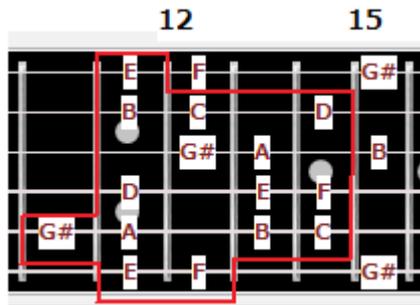
次に Hmp5↓の重要ポジションです。

図、Ehmp5↓スケール重要ポジションその 1

Diagram of the Ehmp5 Down Scale Important Position 1 on the guitar fretboard. The frets 5, 7, 9, and 12 are marked. The notes are: 5th fret (G#, A, B, C, D, E, F), 7th fret (G#, A, B, C, D, E, F), 9th fret (G#, A, B, C, D, E, F), and 12th fret (G#, A, B, C, D, E, F). A red box highlights the notes G#, A, B, C, D, E, F across the frets.

譜例

図、Ehmp5↓スケール重要ポジションその2



譜例

まずはこの4つのポジションを覚えましょう。

指使いは、アドリブ等で実際のメロディーを弾く際は、これとは違ってくる場合もありますが、トレーニングとしてはこの辺りが一番自然に弾けるでしょう。

もちろん、後々は自分の弾きやすいように変えてもらっても構いません。

これらのスケールポジションを、過去の講座で練習してきたようなパターンや、自分が普段トレーニングとして行っているパターンに当てはめて、スケールの雰囲気(響き)を感じながら、じっくり弾いてみてください。

ついでに確認して欲しい事としては、結局、どちらのスケールも、構成している音自体は同じなので、それぞれのポジション内に、もう片方のスケールも見ることが出来る、と言う点です。

A ハーモニックマイナーのポジションの中に E^bHmp5↓がありますし、その逆も然りです。

その様な見方もしておくと、スケールを把握するスピードが早くなるでしょう。

それでは、今回は以上です。

次回は、今回覚えたスケールをどの様に使っていくのか？

その辺り、譜例を交えながら解説して行きたいと思います。

ありがとうございました。

大沼